

学習者の多様性と多面性にこたえる日本語教育とは？

国立国語研究所日本語教育基盤情報センター

金田智子

1. 日本語教育の現状

○学習者数

日本国外：約 298 万人。内，韓国は約 91 万人（2006 年，国際交流基金調べ）

日本国内：約 13 万 6 千人。内，韓国人は約 1.8 万人（2005 年，文化庁国語課調べ）

2. 学習者の多様化／多様性

○1980 年代後半，日本語教育で「学習者の多様化」が注目され始める

ref. 「特集 多様化する学習者をめぐって」『日本語教育』66 号，1988 年

○「学習者の多様化＝学習者の多様性に対する気づき（多様性はもともとあった）」という認識の登場

○現在，「学習者の多様化≠学習者の多様性に対する気づき」という認識

* 「多様化」の中で，学習者にはどんな能力が求められるのか，教師はそのため何をするべきか，が問題となる

(1) 学習目的の多様性

留学・研究（大学，専門学校，大学院他），研修・技能実習，職業上の必要性，将来の就職・昇格等に対する期待，初等・中等教育の課程の一環，家族・親戚とのコミュニケーション，先祖の言葉，訪日予定・希望，結婚・家族形成，社会適応，趣味，等

(2) 学習動機が多様性

○韓国の日本語学習者の学習動機（国立国語研究所，2004）

<調査に用いた選択肢>

大学の入試科目にあるから／大学入学に有利だから，学校の授業にあるから，就職に有利だから，現在の仕事に必要だから，日本人の知り合いがいるから，親や知人などに勧められたから，日本語を学ぶのは知的なこととしてまわりから評価されるから，日本語は難しそうでもやりがいがあるから，学びやすそうだから，日本語に興味があるから，国際的に重要な言語だから，日本の文化や社会についての情報を得たいから，日本の文学や歴史に興味があるから，日本に興味があるから，日本に行きたいから，日本のもの（テレビ，映画，ゲーム，歌など）が好きだから

[表1:日本語学習動機(韓国)] 複数回答, 括弧内は得点

順位	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	学校の授業にある(6741)	学校の授業にある(5027)	日本語に興味がある(2978)	日本語に興味がある(1160)
2位	日本語に興味がある(6055)	日本語に興味がある(1917)	日本に興味がある(1565)	日本に興味がある(684)
3位	日本に興味がある(3523)	日本のものが好きだ(1561)	学校の授業にある(1505)	日本に行きたい(479)
4位	日本のものが好きだ(3114)	学びやすそうだ(1469)	日本のものが好きだ(1124)	日本のものが好きだ(429)
5位	日本に行きたい(2510)	日本に行きたい(1355)	学びやすそうだ(689)	現在の仕事に必要な(420)

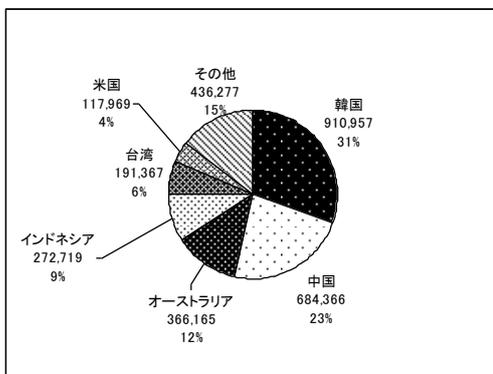
*アニメ, 映像, ゲーム等, 現代の日本を象徴するものが, 動機にも日本語学習の目的, 専門分野にも影響 ⇒ 「多様化」の一例

(3) 学習者層の多様性

年少者(就学前~高校), 成人(若~老)

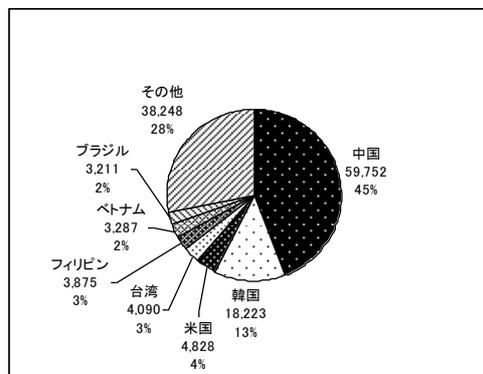
*「年少者」にも多様性: 帰国子女, 家族滞在, 日系人子弟, 初等・中等教育機関のJFL学習者

(4) 国・地域, 母語・母文化の多様性



[図1. 学習者数の国・地域別構成: 国外]

(2006年現在, 国際交流基金 2008 を元に作成)



[図2. 学習者数の国・地域別構成: 国内]

(2005年現在, 文化庁国語課 2006 を元に作成)

*「その他」の中に何か国?

*「韓国」「韓国人」でひとくくりにはできるか

(5) 学習環境の多様性

JSL 環境 ←————→ JFL 環境

○移動性の向上, 通信技術の発展により, ぼやけてきた境界

○日本語や日本社会との接触機会の豊かさの差

* 学習環境の多様性を生かす学習者と生かせない学習者

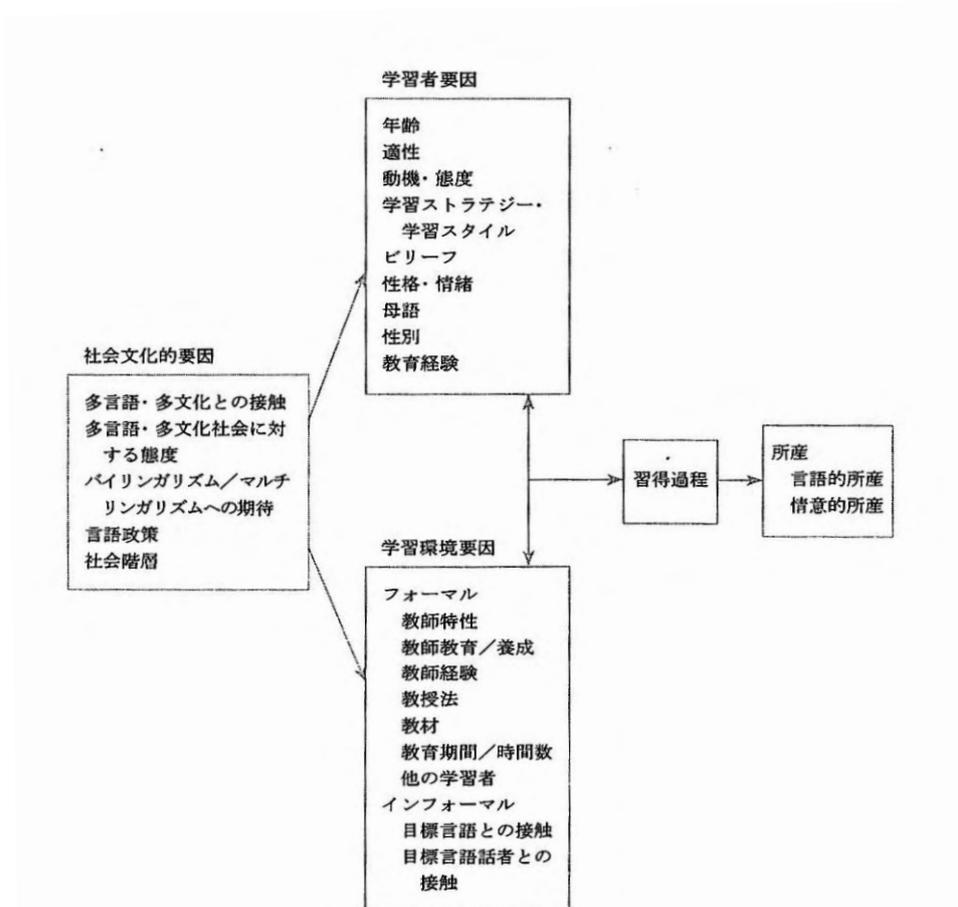
* 学習環境の多様性を生かす教師と生かさない教師

(6) 言語習得における個別性

○ 学習者の多様性と同時に、学びの「個別性」に注目する必要がある。習得過程の個別性は、諸要因の相互作用によって生まれる。(林, 2006) (図3参照)

○ グループ性を見る「多様性」、個々の学びの違いを見る「個別性」

* 「多様な～」と語る時、実は「個別性」を問題にしている場合が多いのではないか。



[図3. 第二言語学習／習得の個別性モデル(林, 2006, p.52)]

(7) 個々の学習者の多面性／多重性

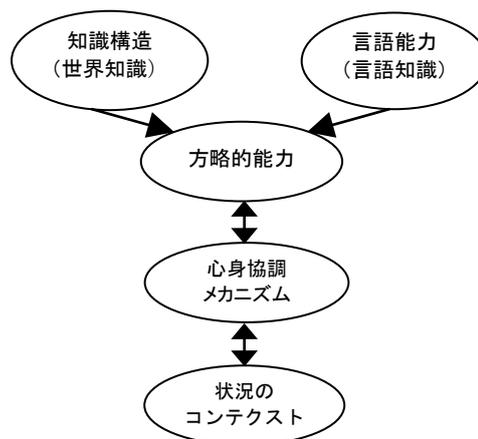
一個人が持つ多面的／多重的な能力

* 「言語の教育」ということで、「言語能力」だけを見て評価していないか。「言語能力」だけを切り取り、「言語能力」だけを伸ばそうとしていないか。

3. コミュニケーションのための能力

(1) バックマンの「言語コミュニケーション力 (communicative language ability)」

- 「言語能力 (言語知識)」は言語コミュニケーション力のごく一部。
- 言語能力 (言語知識) は知識構造 (世界知識) と同様に、方略的能力によって司られ表出されるもの。そして、その能力は、何らかの状況・場面に呼応し、心身協調メカニズムに依存して発揮される。



[図 4 言語コミュニケーション力
(Backman, 1990)]

(2) 移民等に対する自国語教育の到達目標

- 「言語能力」と「知識 (社会に対する知識)」の並立, 絡み合い
ref. 金田 (2008), 黒瀬 (2008), 福永 (2008)
- 「学習能力」(リソースの選択・利用, 時間管理等) への注目

(3) 現代社会で求められる能力: OECD の提唱するキー・コンピテンシー(ライチェン&サルガニク, 2006)

- 「相互作用的に道具 (情報テクノロジー, 言語) を用いる」
- 「異質な集団で交流する」
- 「自律的に活動する」

4. 多様性の中で培う日本語コミュニケーション能力

- *多様性, 多面性の中で, 培うべき核となる能力があるのではないか
- 言語能力を補う能力
- 言語能力を身につけるために生かす能力・知識

5. 多様性, 多面性を生かしつつ, 核となる能力を伸ばす日本語教育

- 帰納的な学び
- 内省的な学び
- 自己調整力を発揮する学び
- *正解の多様さ, 正解への過程の多様さが認められる学び
- *評価方法の重要性

【参考文献】

- 上野田鶴子（1988）「日本語学習者の多様化」『日本語教育』66, 1-13, 日本語教育学会.
- 金田智子（2008）「オランダにおける移民等に対する自国語教育の内容について」『国立国語研究所内部報告書 平成19年度成果普及セミナー報告書「生活者にとって必要な『ことば』を考える』』国立国語研究所日本語教育基盤情報センター.
(http://www.kokken.go.jp/katsudo/seika/nihongo_syllabus/seika/)
- 黒瀬桂子（2008）「中国帰国者に対する日本語教育内容の変遷」『国立国語研究所内部報告書 平成19年度成果普及セミナー報告書「生活者にとって必要な『ことば』を考える』』国立国語研究所日本語教育基盤情報センター.
(http://www.kokken.go.jp/katsudo/seika/nihongo_syllabus/seika/)
- 国際交流基金（2008）『海外の日本語教育の現状 - 日本語教育機関調査・2006年一概要』. 国立国語研究所（2004）『平成15年度日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 韓国アンケート調査集計結果報告書』.
- 日本語教育基盤情報センター学習項目グループ編（2008）『国立国語研究所内部報告書平成19年度成果普及セミナー「生活者にとって必要な『ことば』を考える』』.
(http://www.kokken.go.jp/katsudo/seika/nihongo_syllabus/seika/)
- 林さと子（2006）「第二言語習得研究から見た第二言語学習／習得の個別性」, 津田塾大学言語文化研究所言語学習の個別性研究グループ編『第二言語学習と個別性—ことばを学ぶ一人ひとりを理解する—』春風社.
- 福永由佳（2008）「アメリカにおける移民等に対する自国語教育の内容について」『国立国語研究所内部報告書 平成19年度成果普及セミナー報告書「生活者にとって必要な『ことば』を考える』』国立国語研究所日本語教育基盤情報センター.
(http://www.kokken.go.jp/katsudo/seika/nihongo_syllabus/seika/)
- 文化庁文化語部国語課（2006）『平成17年度国内の日本語教育の概要』.
- ライチェン&サルガニク（2006）『キー・コンピテンシー—国際標準の学力をめざして—』明石書店.